

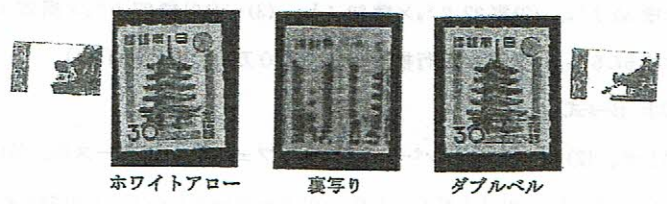
J P S
北九州

会 報
日本郵趣協会
北九州支部
平成31年 1月 12日
第 346 号

新 昭 和

第 二 次

30 銭 秀山堂五重塔 1946.9.26 発行



30 銭 五重塔 (国名左書) 1947.2.12 発行



偶分割版 pos.87「郵」個の頭逆向き (10面素版定常変種)



提供:橋本 たねひろ 氏

第二次新昭和切手 30 銭秀山堂及び目打有りの収集

橋本たねひろ

まず最初にカタログでは、目打の有無によって、第一次と第二次に分類しているが、出現時期は無目打の後レット目打が、その後目打有りの無糊と糊有りが、その後に無目打糊有りが出現するという経過をたどっており、その複雑さが 30 銭五重塔の面白さと難しさである。

30 銭「五重塔」は、一種使用としてまず昭和 21 年 9 月 26 日に着色レット目打、灰白紙で透かしなしの秀山堂切手が発行され、さくらカタログでは単片収集で 1 種となるが、製造面では 5 版まであり、表紙ではそのうち 3 版・・N 版、S 版、色抜けレット・・を表している。

バラエティとして裏写りと有名な定常変種を掲げているが、用紙の継ぎ目印刷や見本などが未入手である。

速く目打入り切手を発行したかったため、民間のシール会社「秀山堂」に発注したので、銘版が「株式会社平山秀山堂謹製」とあり、用紙もぶ厚くもろい用紙といった特徴がある。

エンタイヤや使用済みはそこそこあるが、読める消印は少ない。

下段は本来 30 銭の最後に展示すべきである「国名左書き」で、昭和 22 年 2 月 12 日出現と料金改正までひと月半と短く、まだ無目打切手も大量に残っていたため、適正使用である一種便が極端に少ない切手である。

これもさくらカタログでは 1 種のみで未使用単片収集なら簡単であるが、上記の理由により使用済み 1 枚ですら入手には苦勞するはずである。

後期使用のエンタイヤが若干残されており、外国郵便もある。

最後に、同一図案の切手付き封筒が同年 2 月 15 日売価 40 銭で発売されており、これの未使用、使用済みも収集対象といえるが、同じく使用済みは難しいものであり、未使用だけで我慢することになるかもしれない。